



熊本県学校体育功労賞を受賞して

玉名市立玉南中学校長 校長 松野 保生

県学校体育功労賞を頂き、誠に感謝致します。

私の教師人生は、挫折ばかりで実績も貢献もなく受賞に際しまして申し訳ない気持ちです。

私の経歴は異質で、臨採時代は高中小で計5年、本採用後は小中高中で33年間学ばせて頂きました。どの校種においても教育に対して全力で取り組まれている教師の姿を痛感しました。そして、「預かった以上は、責任を持って卒業させる」と言われて実践されたのが、有明高校当時校長の片山盛雄先生の言葉です。また、7年目の再配置校で学校体育研究指定発表を行い、当時球磨郡岡原町立岡原中学校校長の平井光輝先生に言われたことは、今後教員として継続すべきことは、教育論文を毎年書き上げるということでした。その後約10年間書き続け玉名教育事務所長賞の特賞を頂くまでに至ったのは、当時荒尾第三中学校校長で現在玉東町教育長の下地哲雄先生からのご指導もあったからです。そして、「教師は授業で勝負する。体育人が学校を引っ張っていく」と、中体連の大先輩方から言われ続け、微力ながら実践してきました。

私の校長としての教育方針は、『社会に通用する人間の育成』です。その達成のために、「教育者としての指導力」と「子どもを愛し育てる信念」が重要と考えて、教育に対して「忍耐」と「継続」を自分自身に言い聞かせ実践してきました。そして、その取組の一つが「自分を語る」です。そこで、私の失敗談は、教員採用試験にことごとく落ちたため、昼夜逆転し夜型の独学で学び続けました。暗く独りで孤独の中、自分の欠点ばかりを思うようになり人間不信に陥りました。人と会うのが怖く近所の人と挨拶さえできなくなり、親でさえも会話することはありませんでした。この年採用試験に落ちたら、教員に必要な人間だと思い転職しようと思いましたが、最後に合格して思ったことは、人生怖いものはない、どんな苦難に遭っても耐えられるということを生徒に話し、勇気づけています。

そして、令和2年度中体連会長としての1年目、取らざるべき判断をしたのは夏季総合体育大会の中止でした。管内の校長先生を通して以下の内容を伝えました。

「運動部活動やクラブ等で活動を続けてきた三年生の君たち」へ

『(前略) 玉名荒尾中学校体育連盟として辛く悲しい決断を伝えなければなりません。夏季総合体育大会を中止します。ここに至るまでは、あらゆる方法と可能性を最大限議論してきましたが、君たちの思い描いた夢や希望を満足させることができませんでした。たいへん申し訳ありませんでした。これは、君たちの今後の人生においても辛い経験として残っていくでしょう。我慢できないときは、泣くこともあるでしょう。しかし、このままで君たちの大切な夢を終わらせるわけにはいきません。新たな夢に向かって、また、今まで描いた夢を違った方法で実現するため、立ち上がろう。これまで身につけた忍耐と創造力、自立する力は、これからの社会を生き抜く上で君たちの人生において、貴重な財産となるでしょう。今、友情を築いてきた友と手を携えて、さらに新たな人生に向かって突き進もう。

そして、大切な君たちの想いが叶うことを祈ります。』

これからの中体連は、地域クラブ活動との連携・協力の下、未来の子どもたちに不利益を与えることなく中体連の理念が受け継がれますよう祈念し、お礼の言葉に代えさせていただきます。